

他交通業者、地域との協力、イベント列車の取り組み
 ～他交通事業者、地域との連携で、より魅力ある沿線に発展～

POINT

- ・ 5社相互直通運転による、広域観光客誘客への取り組み
- ・ 地域との連携で、観光客拡大を図る
- ・ 地域の環境保全活動に貢献
- ・ 訪日客誘客のための取り組み
- ・ 多様なイベント列車の運行で、沿線をより魅力的にする試み

□他交通事業者との連携

平成25年、東武東上線、西武池袋線、西武有楽町線、東京メトロ副都心線、東急東横線、横浜高速みなどみらい線が相互直通運転を開始し、沿線地域で相互に観光客増の効果を生みだしている。また、訪日観光客へのサービスとして、西武鉄道が、京成電鉄と協力し、割引乗車券の発売と、成田空港での西武鉄道企画乗車券の発売を行っている。又台湾鐵路管理局と、2015年3月14日に姉妹鉄道協定を締結し、日本と台湾で使用できる、記念乗車券セットを発売した。台湾で人気のあるキャラクターの列車を走らせている。

姉妹鉄道協定締結記念乗車券

□地域と連携して、観光客増加を図る

- ・秩父エリアの観光に向けた企画乗車券の販売

西武線発駅から秩父エリアまでの往復乗車券と、「西武秩父駅前温泉 祭の湯」、レンタカー、バスなどの中からいずれか1つ利用できる「漫遊まる得クーポン券」がセットになった切符で、秩父漫遊きっぷの提示で、秩父エリアの協賛施設・協賛店が割引料金で利用できる。このほか地域の自治体、観光協会と連携し、文化行事や季節の花々をHPで紹介することで地域の活性化に努めている。秩父地域は、自然豊かな地域で、観光地も点在しており、鉄道駅からの足の確保も観光客誘致のためには、重要な要素となる。



自然豊かな秩父地域



西武秩父駅前
祭の湯



秩父市羊山公園
芝桜

- ・川越地区の「イーグルバス」乗車券をセットした企画乗車券の販売

小江戸・川越フリークーポンは、西武鉄道各駅から本川越駅までの往復乗車券とイーグルバスが運営する小江戸巡回バス 1日フリー乗車券がセットになった企画乗車券であり、鉄道駅からの観光地への利便性を確保している。バスの車両もクラシックな様式で、観光客の人気を集めている。川越市中心部マイカーの駐車場も限られており、また新しく蔵里¹に出来た埼玉の35種の酒蔵の試飲が出来る施設（有料）の利用などにも便利である。



蔵作りの町並み
時の鐘



イーグルバス



蔵里 埼玉の酒蔵

¹ この場所で、明治8年（1875年）に創業した旧鏡山酒造の建築物を、当時の面影を残しつつ改修した施設。川越市の物産等を楽しんでいただく新しい名所として平成22年に誕生。国の登録有形文化財にも指定されている。

・エコをテーマにした地域との連携



飯能・西武の森

西武鉄道では、CSR（企業の社会的責任）の観点から、社有地を活用し、未来へつながる自然・地球環境保全に取り組んでいる。

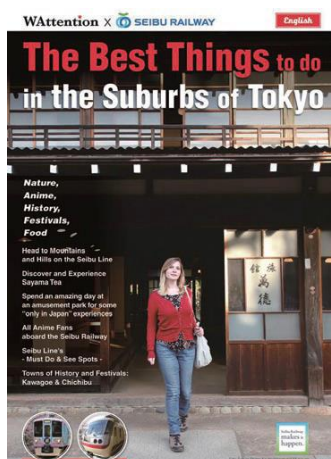
飯能駅から徒歩20分程に位置する森に植樹や間伐、遊歩道の整備を継続的に行っている。

□訪日客誘客の取り組み

西武鉄道では、プリンスホテルなどのグループ会社と連携し、台湾、タイ、香港、マレーシアなどの各国で開催される旅行博や現地イベントに参加している。また、西武線沿線向けの魅力を満喫していただけるよう、西武線全線の観光情報を紹介するパンフレットを英語・中国語（繁体字・簡体字）・タイ語・フランス語の5言語で制作している。その他、秩父や川越をはじめ、西武鉄道沿線の魅力を海外のお客様に伝えるために、秩父地域おもてなし観光公社や川越市と協力して、海外メディアを観光地に招致し、取材のためのメディアツアーを実施している。

また、訪日旅行の際に役立つ最新情報を Facebook で英語・中国語（繁体字）で発信している。Web サイトも英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語で展開している。

また西武鉄道池袋駅構内にある「西武ツーリストインフォメーションセンター池袋」は、訪日観光客向けの対応、内容の充実により、日本政府観光局（JNTO）の外国人観光案内所認定制度における「カテゴリー2」に認定されている。



西武線全線紹介パンフレット（英語版）



西武線全線紹介パンフレット（繁体字版）



訪日外国人向け Facebook(英語・中国語)



西武ツーリストインフォメーションセンター池袋

□多様なイベント列車を運行

また西武鉄道では、2016年4月より西武 旅するレストラン「52席の至福」を運行しており、土日休日を中心に年間100本程度、池袋または西武新宿発西武秩父ゆきのブランチコース・西武秩父発都心方面ゆきのディナーコースを販売している。その他列車内でビールをサーブするビール列車、通勤列車で貸切同窓会を行う同窓会列車などが人気がある。



西武 旅するレストラン
「52席の至福」車内



ビール電車サーバー

<まとめ>

首都圏近郊において、鉄道は通勤・通学の足となる交通機関であると同時に、観光客にも対応する必要があり、行政、地域住民との協働が不可欠である。地域のイベントへのPR協力、自然景観保護への取り組みなど、沿線住民の共感を生む活動を継続して行っている。

また、5社相互直通運転は新たな需要創出につながり、それぞれの地域への観光誘客効果も生み出す結果となっている。

一方、今後のインバウンド対応についても、台湾の鉄道会社との連携、海外の旅行博への出展、WEB関連、ツーリストインフォメーションセンターの充実等きめの細かい対応がなされている。

この地域は、観光客がマイカーで出掛けるケースが多く、いかに列車へ誘引するかが、事業会社としては、キーポイントとなる。マイカー利用では、アルコール類が飲めないことに着目しているところは、列車ならではのアピールポイントとして参考になるところである。

アニメをテーマにした列車運行、地域のうどん店のスタンプラリー等、様々なアイデアと地域との共存共栄の発想は、交通機関の持続的な成長のためのヒントを与えてくれる。